



ふるさと再発見の 旅に参加して

泉 博さん(万年・農業・79歳)

秋晴れのさわやかな九月二十三日、白根・中之口・月湯・味方・濁東・黒崎の六市町村の商工会が主催する「ふるさと再発見の旅」に参加して、意義ある一日を過ごした。曾我量深師(笹川邸は天正年間(一五七〇年ごろ)の建築といわれ、その構えは大庄屋の面影を止めている。以前に私が見たときは、確かかやぶき屋根だったと思うが、

今は銅版ぶきとなっていた。俳人高浜虚子の「椎落葉掃き悠久の人住めり」の句碑もある。同邸内の曾我・平沢記念館には、両氏の胸像、遺墨などが多数展示されている。曾我量深師は高僧で、真宗大谷大学の学長を二期務められ、昭和四十六年に九十六歳で天寿を全うされたとのこと。また、平沢興先生は脳神経学の世界的権威者で、新潟医科大学教授も務められ、京都大学総長を二期、学士院賞受賞の栄誉を得られ、八十九歳で

市民談話室

12月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係(☎373-2111④333)です。



大通地区市民運動会で

生涯を閉じられたという。

また、樋口記念美術館は以前よりも周辺が見違えるほど立派に整備されていた。館内の美術品は旧大原村今井出身の樋口頼嗣翁の寄贈によるものである。翁は若くして上京、苦勞の後に青果物卸会社を設立された。功成つて長年収集した秘蔵品を、村に寄贈されたとのこと。一階はふるさとが生んだ先人たちの書画コーナーが、三階には歴史民俗資料館があり、鑑賞をのぶコーナーや農具・民具の陳列があった。

すでに刈り取りの終わった蒲原平野の風物詩、門田のはぎ木並木を通り抜け、新飯田の観光



国保引き下げ努力に感謝 健康診断の大切さ

小池 絢子さん(東笠場・農業・59歳)

先日、本年度の国保税額の通知がきました。昨年より十三万円ほど少なく、うれしく思いました。夫に聞いてみると、台風で所得が減ったのと、国保税率が一〇%下がったのが原因とのこと。税率を一〇%下げる努力、保健行政に一生懸命に携わっておられる方々の努力に心から感謝を申し上げます。

果樹園で昼食を取った。さらに、徳川時代に一世を風靡した越後獅子の里、月湯の角兵衛獅子を見学することができた。私の幼いころの思い出をたどりながら、少年少女の厳しい訓練に耐えた曲芸を心行くまで堪能させてもらった。



丸湯の昔話 坊主橋の由来

吉沢博太郎さん(丸湯・農業・78歳)

祖母の話によれば、丸湯部落は昔は沼に囲まれた村でした。東の方には野地、前の濁、下の濁、南には金鉢、西には沢と、五つの沼の中にあつた。それで丸湯部落と名前が付いたのでしよう。

た、また、舟で送ってもらった。そこで三部落で道を作る話が決まり、茸場も道湯も出来上がりました。丸湯もできたのですが、一カ月もすると土手が崩れて通れなくなりまして。三回目も駄目でしたので、村の人たちが相談しておりました。



変わりゆく社会に 生きる心構え

中島 貞子さん(庚・無職・74歳)

今や社会生活の向上は止まるどころを知りません。これに比べ、厳しい社会経済の変化は著しく、新聞、テレビの報道を見る度に、何となく寂しい感じがいたします。

のが見えた。何か役に立つかも知れない」と言いました。そうなの。そして出来上がったのが坊主橋です。それが昭和文政のころだそう。



橋の話 新橋建設に期待

山田 弘さん(中鷲ノ木・会社員・55歳)

ご承知のようにわが市は、母なる信濃川と、西蒲原との境を接している中ノ口川に囲まれた、南北に長い地形にかたどられていて、その市を取り巻く十六橋の中で、信濃川に架かっている橋は庄瀬橋から大郷橋まで四橋と意外に少ない。それに比べ、中ノ口川には新飯田橋から大野橋まで十二橋も架かっている。

濁交通の電車が走っていたためで、交通の手段としての渡し舟に代わり、橋が建設されてきたためであろう。

の力、県の行政力に期待する一人である。

市民文芸

俳句

風鈴や約束の刻どうに過ぎ 五十嵐寛吾
秋咲ける丘の小さな美術館 公條 雪夫
滝涼し紐をゆるめし登山靴 和泉 伸子
コーラスの流れコスモス揺れかは 小林 光子
血の色を天に捧げてカンナ咲く 安沢 飛浪
波押しつけてゆく耕機押してゆく 猪股 南魚
羽少しすぼめて蜻蛉止まりけり 古川 綾
饒舌の後の淋しきソノダ水 樋口 トシ
銀漢を仰ぎて山の湯に浸る 豊木サダ子
蟋蟀の鈴をまはりて音を振る 小林 すみ
一心に畫作祈る秋祭り 玉木 長吉

短歌

朝な夕な往くあせ道の秋桜の 中村 京
花の幾つに蜻蛉の宿る
秋晴に雑草と友にし陽浴びて 長谷川久二
人目寄せ合う野菊満開
微かなるコロロギの音ききにて

川柳

カランター線れば立秋ぞ今日 小出熊四郎
新幹線窓ごし仰ぐ高崎の 白衣観音夕暮に没す 小出しの
音もなく死神スターを迎えに來 竹石 甚五
生け贅の血で描く神の世界地図 中村 尚治
十字路で迷わずに履く白い靴 西条 ムラ
減量を秋の味覚が邪魔をする 早川 英男
甘い汁吸って役職棒に振る 山岡 フミ
年金で素直に酔える酒を貰う 吉川 彰
愛犬も敬老会の仲間入り 米野 光雄
下駄箱の下駄は無口な居候 今井 七郎
踵いて思想が転ぶ星月夜 織田 福治
秋風に花芽を抱いて居るツツジ 織田 セツ
どんなにか美人おもわす電話口 後藤マサノ
萩咲けば思い出させる亡父の咳 佐藤 トミノ
人格の見分けつくのか犬が吠え 佐藤 ヨキ
曲にはもう衣着せぬ役を退き 高橋祐四雄
枯れ枝をスターにさせる花鉄 田中 成子
頂点に立つと吹き出す向かい風 田村 恒夫
未だと思ふ孫の知識に脱帽し 大井 義雄